

令和5年度第2回茅ヶ崎市立鶴嶺公民館運営審議会会議録

議題	1 令和5年度主催事業報告（8月～11月実施分）について 2 諮問に対する答申案作成について 3 その他 （1）令和5年度公民館館長・公民館運営審議会委員等研修会の報告について （2）茅ヶ崎市立鶴嶺公民館運営審議会委員の候補者の推薦について
日時	令和5年11月22日（水）13時30分～15時
場所	茅ヶ崎市立鶴嶺公民館2階学習室2
出席者氏名	会 長 岩壁 榮 副会長 岡野 一郎 委 員 田中 節夫 山本 和男 渡辺 孝 堀内 秀行 金井 秀子 事務局 担当課長 荒 名穂子、主任 三谷 恭子
会議資料	次第 資料1 令和5年度主催事業報告（8月～11月実施分） 資料2 答申案
会議の公開・非公開	公開
傍聴者数	0人

（事務局）

皆様、本日は公私ともに大変お忙しい中、お集まりいただき誠にありがとうございます。

これより、令和5年度第2回鶴嶺公民館運営審議会を開催いたします。

この審議会は、公開となっております。本日の傍聴はありません。

それでは、この後の議事進行につきましては、岩壁会長にお願いいたします。

（岩壁会長）

委員の皆様、お忙しい中ご参加いただきありがとうございます。議事を進める前に、会議録の作成方

法についてご説明いたします。この会議は公開となっています。会議録を作成するにあたり、会議録の内容について委員に確認し、その旨を記録として残す対応となります。会議録の内容確認は、会長に一任でよろしいでしょうか。

(異議なしの声)

それでは議題に入ります。議題1「令和5年度主催事業報告(8月～11月実施分)について」事務局より説明をお願いします。

(事務局)

資料1をご覧ください。8月から11月に実施した事業の実績を一覧にしています。

子ども事業は5事業です。「小学生サークル体験」は、第1回の鶴嶺公民館運営審議会でもご報告しましたが、鶴嶺公民館の登録団体(サークル)に、小学生対象にした体験会の実施を募り、開催した事業です。たくさんの児童に参加していただき、さらにこの事業をきっかけに、鶴嶺公民館のサークルに入り、活動を続けている児童もおります。「プラスチックごみ削減講座」は、花王グループカスタマーマーケティング株式会社(以下「花王グループ」)の協力のもと行った事業で、公民館5館をオンラインでつないで実施しました。「子どもの広場」は、9月に「月見団子を作ろう」、10月に「楽しい卓球入門」を行いました。今後は、音楽演奏とおやつ作りを体験する内容を実施予定です。「花王エコラボミュージアムオンライン見学会」は、小学校の秋休みに企画しましたが、申込者がおらず、中止としました。

家庭教育支援関連事業は、5事業です。「子育ての広場カルガモ」は、毎月第4木曜日に、乳幼児を持つご家庭を対象に、同世代の親同士の交流・息抜きの場を図る事業です。「子育て応援『美味しいだしで一汁三菜』」は、申込自体はありましたが、申込者数が少なく、材料費高騰を踏まえ実施が難しくなり、中止といたしました。「子育てしながらウクレレマスター」は、参加者同士による相互保育を行いながら、ウクレレ演奏を4週にわたって学ぶ講座で、最終回では、「子育ての広場カルガモ」にて、演奏発表を行います。

シニア事業は、3事業行いました。「インターネット被害未然防止講座」は、NPO情報セキュリティフォーラムの協力のもと、実際にパソコンに触れながら、ネット詐欺等の疑似体験を行いました。

博物館連携事業は、1事業行いました。公民館主催前任の審議会委員から、公民館の横を流れる小出川の活用について答申をいただいたこともあり、小出川の植物を採取・観察・標本作成を行う「小出川植物標本づくり」を行いました。参加者が作った標本は、茅ヶ崎市博物館でも展示を行いました。

地域課題等解決事業は、9事業行いました。「つるみねミュージックインサマーライブ」は、近隣中学校・高等学校の吹奏楽部や地域で活動する音楽愛好家の成果発表の場となりました。特に、中学生は、高校生の演奏に、刺激を受けていたようでした。「異文化交流講座 知ってみたいなよその国～ドミニカ共和国～」は、茅ヶ崎に住むドミニカ共和国ご出身の方を講師に招き、ドミニカ共和国の料理を作り、文化や習慣の違いなどを話していただきました。「みんなでやるから楽しい グラウンド・ゴルフ

体験教室」は、公民館隣の萩園第三公園で行いました。初めて公民館主催でグラウンド・ゴルフを行いました。参加者の満足度も高く、継続実施を希望する声が多く寄せられました。

学習成果活用・学習情報提供事業は、4事業行いました。「古典文学講座」は、鶴嶺公民館で20年近く続く事業です。今回は『紫式部日記』と『源氏物語』を題材に行いました。「公民館フェスタ」は、イオン茅ヶ崎中央店の催事場をお借りして展示を行い、公民館のPRを行いました。「つるみねオープンサークル」は、鶴嶺公民館でサークル活動を行っている団体のサークル体験も兼ねて事業を行っているものです。鶴嶺てんこく会による「消しゴムはんこで年賀状づくり」を行いました。ロビー展は、随時行っており、県立茅ヶ崎支援学校（旧：茅ヶ崎養護学校）の学校紹介展示や項番1の子ども事業で説明した「小学生サークル体験」における書道等の作品展示、鶴嶺公民館で活動するサークルの作品展示が行われました。

最後に、今後の事業にはなりますが、令和6年1月20日（土）・21日（日）に、「つるみねミュージックイン ニューイヤーコンサート」、3月2日（土）・3日（日）に第42回つるみね公民館まつりを行いますので、委員のみなさまもぜひお越しください。以上です。

（岩壁会長）

説明が終わりました。ご意見、ご質問はございますか。

（堀内委員）

定員に比べて参加者が少ないようですが、申込時点で、すでに定員割れしているのですか。

（事務局）

すべての事業ではありませんが、大半の事業で定員まで申し込みがあります。しかし当日キャンセルがあり、参加者が少なくなっています。特に子ども事業は、インフルエンザの流行で、当日キャンセルが相次ぎました。

（堀内委員）

申込みの段階で、定員超過分を受け付けていないのですか。

（事務局）

キャンセル待ちとして数名受け付けています。

（田中委員）

企画自体は良いものだと思いますが、申込が0人だったり、材料の採算があわなくて中止だったりというものがいくつかありましたが、ニーズと事業の企画とのバランスが気になりました。特に、「プラ

スチックごみ削減講座」は、鶴嶺公民館は主催ということで、参加者が多いようですが、香川は0人とのことで、5公民館の中で、どのようなPRをされているのか気になりました。PRの仕方に問題あるのかないのか、今後検証して、次に活かしていただきたいと思います。

(事務局)

プラスチックごみ削減講座に関して、香川公民館では申込みが1人いらっしゃいましたが、当日キャンセルになりました。広報活動は、鶴嶺公民館で作成したチラシを5館で共有して、周知しました。この事業で申し込みが少なかった要因として、8月の土曜日に設定したことだと考えています。コロナが5類に移行して初めての夏休みだったので、家族旅行を計画される方も多かったようでした。

同じく子ども事業の「エコラボミュージアムオンライン見学会」は、秋休みに企画しましたが、秋休みは遠出されるご家庭が多いようで、日程の設定について見直しが必要と考えています。

先ほどの説明の補足ですが、「プラスチックごみ削減講座」は、市としての環境への取り組みに関する質問がありました。市環境部と連携して、後日、質問者に回答を送りました。子どもの素朴な疑問をそのままにせず事業を終えられたと考えています。

(田中委員)

回答は、質問者だけに送ったのでしょうか。参加者全体に、質問・回答内容を共有されたのでしょうか。今の時代に即した素晴らしいテーマを扱っているので、参加者全員に共有されると良いと思いました。

(事務局)

今回は、質問者にのみ回答しましたが、ご意見は次回に活かしたいと思います。

(岡野委員)

子ども事業の「夏休みサークル体験」は、様々な内容で行われていますが、申込されているお子さんは、同じ子が多いのでしょうか。

(事務局)

申込みは、3つまでとしているので、同じ児童がすべて参加しているということはありません。

(岡野委員)

小学生は、何を見て申し込まれているのでしょうか。

(事務局)

地域の3小学校(鶴嶺小学校、今宿小学校、浜之郷小学校)の全児童に、1人一枚チラシを配布しました。申込みは、計400名程度ありました。

(岡野委員)

申込みされている方は、何を見て事業を知った方が多いのでしょうか。

(事務局)

「小学生サークル体験」については、3小学校に配布のみで、広報ちがさき等には掲載していません。小学生以外を対象とする事業は、広報ちがさきで情報を得た方が多いです。また、高齢者の方は、メール配信で知って申し込まれる方が多い印象です。

市のメール配信は、自分がほしい情報カテゴリを選択して登録している方に、メールで情報を届けるシステムです。公民館の事業を配信する際は、およそ5,000人に届いています。

(岡野委員)

メール配信は知りませんでした。

先日、イオンで、5館の展示を見かけて、こういうところでも事業の宣伝をしているのかと驚きました。何の媒体が、一番効果があるのかというのを分析して、効果があるものをどんどん取り入れてほしいです。

(事務局)

広報ちがさきが月に1回しか発行されなくなり、また、公民館の事業も、「社会教育施設からのお知らせ」という小さい枠で、載せられるものも限られるようになり、事業名と日時しか掲載できていません。広報ちがさきの掲載量が少なくなった分、自治会回覧をお願いしたり、活動に来ているサークルにも配ったり、ということをしています。

(田中委員)

情報つるみねは、どこに配布していますか。

(事務局)

萩園・西久保・矢畑・浜之郷・下町屋・今宿・平太夫新田に配布しています。

(田中委員)

メール配信は高齢者が多いとありましたが、メール配信自体を知らない方や、登録していない方に、

そのやり方を周知してみても良いのではないのでしょうか。

(事務局)

LINE配信もあるので、両方の登録のやり方の案内を考えてみたいと思います。

(岩壁会長)

その他、ご意見等がなければ、次の議題へ移ります。議題の順番を変えまして、議題3を先に進めます。「議題3その他(1)令和5年度公民館館長・公民館運営審議会委員等研修会の報告について」ですが、私と岡野委員が先日の、研修会に参加しました。その概要につきまして、岡野委員に説明いただきます。

(岡野委員)

研修は、人権ワークショップと講演の2部制でした。ワークショップでは、私は、平塚市・厚木市・相模原市の方と4人でグループワークを行いました。テーマは、公民館が避難所になることも多いということで、「すべての人々の人権が守られる避難所にするために」でした。多種多様な人が避難してきた時に、人は、自分の立場で物事を考えてしまうという傾向にある中で、色んな人の立場に立って、「あなたが避難所に行った時にどんなことに困って、どんなことを不安に思いますか」という質問が投げかけられました。色んな立場の方が書かれたカードがあり、そこには例えば、“自閉症の子を抱えている保護者”、“外国人の方”、“ペットを抱えている方”、“認知症のパートナーがいる方”など10枚くらいありました。私は、“ペットを抱えている方”を引き、その立場で、どんなことを不安に思うか意見を出しました。ペットを飼っていても、人間と同じように扱ってくれるか、という点が一番不安ですよね。ペットは家族と同様ですが、実際にはペットは同じ場所では置いてもらえないです。そういった不安があります。各自、そういった問題を出していき、1枚の表に貼り、最後にはみんなが思っている不安は、そこに集まっている方の心配り・配慮で解決できるものか、予算をかけて設備改修しないと解決できない問題か、2つに分けました。大半が避難所に集まった方の心配り・配慮で解決するものが多いということに気付きました。避難所に行った時には、やはり思いやりをもって、その人の立場に立って、いわゆる共助の気持ちをいかに持つかが大事だということを学びました。

講演については、「発展した社会におけるこれからの公民館」というテーマで、公民館が戦後にできて、現代に至るまでの推移・歴史のお話がありました。全国に公民館の数は、13,798館あるとのことで、人口10万人あたり11館が平均なのですが、神奈川県は、165館しかありません。全国45位と非常に少ないのです。少ない原因は、人口の多い横浜市・川崎市には公民館がないからでした。川崎市は市民会館というらしいですが、横浜市は公民館が全くないということで、平均で取ると全国45位になってしまうそうです。

また、公民館がどのように使われているかという特徴として、全国的には、趣味・稽古事、体育・レ

クリエイションで使っているというのが半数以上なのですが、神奈川県の特徴は、家庭教育、家庭生活の向上という観点で活用しているという回答が33%あったそうで、それが神奈川県の公民館の特徴とこのことでした。

それから公民館の目的は、改めて何かというお話がありました。過去には、7つ（社会教育機関・町村民の社交機関・産業振興の原動力・民主主義の訓練所・文化交流の場・青年の積極的協力・郷土振興の機関）ありました。これは昭和の戦後の話で、現代は、その中でも、やはり地域づくりが一番の目的であるとのことでした。公民館と地域づくりは表裏一体で、つまりそのまちの地域をつくっていくには公民館は非常に大切な場所なんだということに認識してもらいたいというお話がありました。もう一つはなんととっても、個人の自己実現を支援すること、自分がやはりこういう風な大人になっていきたい、こういう高齢者として生活していきたい、ということに支援するのが、公民館の役割なんですよというのが、ありました。改めて、公民館というのは、教育上大切な場所なんだと学んだ機会となりました。以上です。

（岩壁会長）

ありがとうございました。その他参考となる内容ですが、災害時の避難所については、みなさん共通していることのように思いますが、何を求めるかということ、家族の安全、トイレの設置、自分の健康管理、一般的な情報の入手が必要だと、そんな意見もありました。これはワークショップですから各グループの代表が発表して、お互いが共有することもしました。

講演については、日本女子大名誉教授の田中先生曰く、これからの公民館の課題は、1つ目は、個人の自己実現を支援していくこと、2つ目は地域づくりの推進、そのためのつながりづくり・地域課題の解決・地域文化の継承、そういうものが必要なのではないでしょうかとのことでした。3つ目は対面活動とITの駆使、4つ目に地域機関・団体のネットワーク化、そのようなことをおっしゃっていました。学問上の話ではなく、地に着いたお話でした。

（岩壁会長）

次の議題へ移ります。「議題3その他（2）茅ヶ崎市立鶴嶺公民館運営審議会委員の候補者の推薦について」、事務局より、説明をお願いします。

（事務局）

皆さま、令和6年3月31日をもって、茅ヶ崎市立鶴嶺公民館運営審議会委員の任期が終了となります。次の審議会の委員の推薦について、年明けくらいに関係団体に委員の推薦依頼を送ります。

依頼先は、鶴嶺西地区まちぢから協議会、鶴嶺東地区まちぢから協議会、鶴嶺東地区社会福祉協議会、茅ヶ崎小学校長会（輪番で今宿小学校）、茅ヶ崎市老人クラブ連合会、浜之郷小学校区青少年育成推進協議会、鶴嶺公民館利用者懇談会です。2月中旬くらいまでに推薦書を提出していただこうと予定して

います。

(渡辺委員)

老人クラブ連合会から、相談ありましたでしょうか。今までは、萩園笑寿会が、公民館とのつきあひも、日本の年越しのしめ飾りづくりの事業に関わっているところだけなので、審議会の委員として、何か力になれているのかと思っているところもありました。

(事務局)

他の公民館では、地域にある県立高校や幼稚園、体育振興会から選出している公民館もあります。実は、次年度は、子ども事業や、家庭教育支援関連事業に力を入れていきたいと考えているところもありますので、老人クラブ連合会の会長とご相談の上、依頼団体を変更するかどうか検討します。

(堀内委員)

審議会委員は、館長の諮問を受けて答申していかなければならない立場なのですが、そのためには、社会教育や鶴嶺公民館を知っていないと、難しいと感じます。それとは別に、先ほど岡野委員が研修で学んできたとお話がありましたが、この地域で活動している団体の幹部・リーダー的な存在を集めて、社会教育をする場でもあると思っています。逆に、公民館の方として、この地域で活動しているなかで、どういった団体を選んで、どういった社会教育をしていくかということを考えて選んでも良いのではないかと思います。

(岡野委員)

公民館側から「この人を」とお願いすることは難しいでしょうから、各団体にお任せするしかないでしょう。今まで知らなかったことをいっぱい学びましたので、色んな人に、こういう委員をやっていただくのも良いかと思えます。

(田中委員)

委員の男女比はどのように考えているのでしょうか。あえて男女で分ける必要はないとは思いますが、色んな視点で意見を言うとなると、今回は男性が多いですが、女性にももっと入っていただきたいなと思います。推薦の段階では考えないのでしょうか。また、もう少し若い世代が委員になってくれると良いなと思います。もっと女性の力、若い力が公民館運営審議会の中にも必要だなと思います。すぐにはできないとは思いますが、そういう投げかけをしていければ良いと思いました。

(岡野委員)

自治会でも、まだまだ男性が多いですが、民児協や学校でも女性の校長先生・教頭先生も増えてきて

います。自然と女性が増えてくるのではないのでしょうか。誠実さや地道な努力というのは、女性の方が一日の長があると思います。こういう取り組みでは、女性の方が良い成果を上げるのではないかと思います。今は男女の区別をしないという時代ですけれども、そういった中でも、女性の意見をぜひ尊重していくというのは、大きな方向性としては大事かと思えます。自然と変わっていくかなと思えます。

(岩壁会長)

団体をお願いして、推薦してもらい、という形式を取っているのですが、人物を指定できませんので、公民館では決められない部分もあるかと思えます。

その他、ご意見等がなければ、最後の議題へ移ります。「議題2 諮問に対する答申案作成について」、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

9月に、答申案作成の検討会を行いまして、その時にいただいたご意見を整理したものを資料2としてお示ししています。

4～6ページが答申の内容です。大きく2つ、「公民館を知ってもらい、公民館に足を運んでもうための方策」と「公民館活動に参加してもらうために必要な方策」に分けています。8ページの資料は、令和6年2月まで記載する予定です。内容についてのご意見をいただきたいと考えています。

(岩壁会長)

ご意見多々あると思います。できる・できないは別として、課題として整理して、将来のために、鶴嶺公民館が、より地域づくり、仲間づくりをする上での参考になればと思っています。公民館の職員だけではなかなか解決できない部分があるのではないかと考えています。コロナで市の財政も圧迫したようですし、学校給食等市の施策で優先されるものもあって、予算がつかないということも推測されます。ただ、いずれにしても、こういう声があるということ発信しておくことも必要なのかなと思えます。何か発信すれば、将来のためにとっておいて、時期が来れば、実現できるようなものにつながっていければ良いと思います。今回、皆さんと、その辺の考え方を共有したいと思います。そのような形で答申案をまとめるということでもよろしいでしょうか。いかがでしょうか。

(異議なしの声)

ありがとうございます。この後ですが、この案を一度持ち帰って、表現の修正や追加、そういったご意見をまとめていただき、次回もう一回検討会を開きませんか。

(賛成の声。1月25日(木)14時に答申作成にかかる検討会を開催することとした。)

今日のご案内いただき、ご意見を1月14日(日)までに事務局に提出してください。

その他、委員の皆さまから何かございますか。他になければ、以上をもちまして、本日の会議を終了させていただきます。議事進行にご協力いただき、ありがとうございました。